

新入園児の母への手紙

鹿野京子

吹く風は膚に冷くとも、陽射しはうららか
に、庭隅の花壇の軟かな黒土を持ち上げて新
芽の幾つかが、未だ稚いながら力強く春の訪
れを謳つて居ります。

時折、私共はお母様方の口からこん
な言葉ををききます。

お手紙拝見致しました。葉子様御入園の由
本当に出自度うござります。貴女に手をひ
かれて赤い靴の足どりも覚束なくお訪ね下さ
いましたのはつい此の間のことの様に思はれ
ますのに、早いものでござりますね。初めて
のお子様のことではあり、お喜びの深さも又
何かと御心配の多いでしようことも御察し申
上げます。私も一人の母として入園式に臨み
ました日、いたいけな子等の姿に胸迫る思い
が致しました。今、年々の春に新しい子供達
——ひとりく——が夫々の家庭に又社会にとつ
て、かけがえのない宝であります——の清ら
かに生き生きと輝く顔を迎える立場にな
りまして、年毎のならいとは申しながら、身
も心も更なる思いが致します。折柄、新入園
児の母として心得て置きたいこと等話す様に
とお手紙頂きまして、私の思いつきます」と
と幾つか申述べて見ましょ。

がら「よくお勉強してくるのですよ」
それから「こちらの幼稚園は××小学
校への入学率が大変宜しい相で——」

もとより入園を希望するお母様方の
すべてが此の様に考えて居られる訳で
はありますまい。それならば幼稚園とは何ん
な所でしようか。

幼稚園は且て考えられた様に、単に家庭教育
を補ふ施設でもなければ、託児所でもなく
何やかや物を教え込む所でもない、まして特
殊な学校への準備教育を行う場所ではありま
せん。今日の幼稚園は教育基本法と学校教育
法によつて定められた教育体系の最初の学校
として、幼稚園独自の使命と目的を有つて居
るので。即ち適当な環境の中に、児童の生
活に即した教育課程に基づいて、児童を樂し
く遊ばせながら、その一人々の心身共に健
やかな成長発達を助成し将来よりよき社会人

として生活し得る基礎を培うことにあります。

次のことを先づお母様方に充分理解して頂きたいと思ひます。

人格の基礎は、生後五ヶ年の間につくられると云はれます。成長発達の上にそれ程重要な幼児期を、「よき幼稚園環境の下に望ましい生活経験を得させる」それが何んに大切なことかよくお判りのことと思ひます。

幼稚園教育の本質から考え、その目標達成のためにも、又幼児は社会性の芽生える年令の上からも、新学前二ヶ年の幼稚園教育が是非とも必要であり、最も適当と考えられます。

近年幼児教育の重要性に鑑み、なるべく多数の幼児に幼稚園教育を与えるために、公立幼稚園に於ては一年保育の者を優先的に入れる傾向が見受けられます折柄、二年保育を建前とする私立幼稚園に於ては、更に施設の向上、教育内容の充実に努力して居ります。

尙、私立幼稚園には私立としての独

自性が考えられます。

或いは独自の教育理想を掲げて、或ひは宗教教育を以て行はれる場合もありましょう。

又、特殊な音楽教育や体育等を採入れる場合もあります。(もとより何處までも教育の本質を外れてしませんし、行きすぎは、戒められなければなりません)

家庭の理解と協力は必要ですが、幼稚園としては有りがちな、親達の虚榮心や利己心に迎合することなく、幼児を通しての上に深い影響力をもつ家庭教育の指導に迄及びたいと思ひます。

勤めをもつ母の留守を近隣に遊び友達もないまゝに、想像の幼稚園に通ひ、想像の友達「あきらさん」や「よし子さん」と遊び暮します。私の子供が、いよいよ思ひが叶つて現実の幼稚園に通える様になりました時の喜びは、誠にいじらしい許りでした「幼稚園で一番うれしいこと」は、ブランコでも砂場遊びでも人形芝居でもなく「お友達と遊べること」とためらわずに答えました。

幼児が家庭の外に友達を求めて遊ぶ様になりますのは、その心身の成長発達、特に社会

性の芽生えに基づくものであり、集団生活への参加の要求は非常に強いものであります。

幼稚園は幼児の正しい成長発達に適切な生活環境として、幼児に集団生活をさせる所です。「先生、御本見てもよろしいですか」初対面の先生にも笑顔でもの、云える子、高く積み上げてはくすり、家になり、汽車になり、積木遊びに余念のないグループ、手をつないでブランコへ、こり台へと元気よく駆け出していく子供達。心身が正常に発育し、又近隣の友達との遊びを通して社会性の発達して居る幼児は、新しい環境にも容易に馴染むことが出来ます。

けれど大多数の新入園児にとつては個々の家庭生活から幼稚園と云う集団生活への環境の激変が、その幼い心身に大きな影響を及ぼさずにはおきません。

登園の日を指折り数えて待ちながら、いよいよその朝になると行き渋り、幼稚園の門前で足ぶみし、母にひしと寄添つて少しでも側を離れ、泣き叫び、或いは無言のまま遊びの仲間に加はらず、たゞぼんやりと眺めて

居る許りの子供達、更には不眠、食欲不振、発熱等身体障害さえ惹起する者もあります。此等は、多く一人児末子等家庭に於て世話をされすぎた子供、社会性の発達の不充分な幼児に著しい現象です。

中には亦、乱暴に友達の遊びの妨害をしたり、共同の遊具を独占したり、所謂がき大将やいぢめつこの存在も見受けられますし、何れと友達の世話をやく女児もあります。

この様に家庭から幼稚園へのうつりかはりは同じでも、その反応の仕方や度合はひとりく異つて居ります。

そのさまざまの子供達を無理なく集団生活に導きよろこんで集団生活をさせるには——
一日も早く先生を中心に園児達みんなの仲よく楽しい幼稚園にするには——
毎年の春に新入園児を迎える私共保育者のそして貴女房お母様の何より先づ心をくだくのは、このことでありましょ。

それには、はじめに幼稚園の楽しい環境を考えて見ましよう。
春を迎えて今をさかりの花を咲か

せ、或いは若芽の緑もつやゝかな樹々、先生と子供達との丹精が育てた赤・黄・紫色とりくの草花、池の金魚やお玉じやくし、鳥籠の小鳥も兎や山羊もみんな子供達の愛撫を待つて居ます。

小山や芝生やお砂場ブランコ、辻り台、子供の大好きな遊び相手です。

明るく清潔な園舎、上品にしかも魅力的な装飾された保育室、机も椅子も子供のために作られ、大きな積木、まゝごと道具、人形、絵本等々、之等は先づ或る子供達の心をしつかり捉えることでしょう。

けれど何よりも先生の細やかな愛情をもつてひとりくに向けられた顔は無言の訴えをもよみとり、明るく優しい笑顔と差しのべられた温かな手が、子供達の不安をとり去つてくれましよう。先生に「みとめられている」「まもられている」その安心感が安定感をもたらし、すべてはその上に築かれて行きます。

子供をいつも集団としてのみ取扱うことは必ずしも愛情の公平な分配ではありません。幼児教育に対する充分な理解と、溢る、許りの愛情をもち、周到に用意されたカリキュ

ラム（保育計画）に基づいてひとりくを指導される先生ならば、子供達は本当に幸福です。この様に先生は気づ自分をも含めた幼稚園の環境を楽しむるく整えて子供達を迎えましょ。

お母様方は、幼稚園は楽しい所、先生は優しい方と、子供の心に呼びかけて頂きたいものです。

（入園前にも、子供を中心にお母様と先生との楽しい一日のつどいをもちたいと思ひます）幼児がはじめて体験する集団生活に、一日も早くよろこんで参加することが出来る様お母様方の配慮を切望致します。

云うまでもなく幼稚園教育には家庭との密接な連絡と協力が大切なことです。先に申しました一人々々の指導を行う上からも、先生は園児の一人々々の家庭環境、心身の発達状況健康の記録特質傾向等を、家庭との連絡により知つていなくてはなりません。
殊に子供が望ましくない性情や傾向を示す場合、例えば、仲間に入れなかつたり、仲間をかき乱したり、うまくものが云えなかつた

り、神経質や其の他種々社会的或いは情緒的に不適用を示す子供は、夫々の理由をもつています。それが娘のあやまりのためか、それとも精神的身体的の異常のためか、家庭と園との緊密な連絡のもとに原因をとり除かなければなりません。

幼児を中心には、幼児の幸福を念願する幼稚園と家庭とが、相互の理解と信頼により手をつなぎあつてこそ、幼稚園教育の効果を挙げることが出来るのです。

家庭の協力は娘についても同じ事です。

幼稚園に於ては、楽しい集団生活の経験を通してその中に協同及び自主自律の精神が養われて行きます。幼稚園を「何時もみんなの明るく楽しい社会」とするためには、「幼稚園のきまりを一人々がよく守らなければならぬ」と云ふことを、子供達が充分納得する様に導かれなければなりません。

社会的人格の基礎は幼児期に於て培われます。集団生活の娘は入園第一日より始められます。

例え、

一、挨拶の仕方

二、持物や衣類の整顿

三、共同の遊具や玩具の取扱い方及びその後の始末

四、手洗ひ場や便所の使い方

五、自分のことは自分で始末出来る様にすること

六、みんなと仲良くすること

七、他の迷惑にならぬ様にすること

八、自分の思ふことをはつきり話すことが出来る様

九、先生やお友達の話は最後迄落着いてよくきくと云ふ態度

十、お母様に限らず、お父様も祖母様も家族の皆さんのが心を併せて幼稚園の教育方針を実行して頂きたいと思います。

十一、最初からよい習慣を充分にしつけること

十二、そしてよい習慣はよい習慣の行われる環境に育つことによつて身について行くものである事をよく考えましょう。

思うこと意を尽くせませんが、少しなりと御参考になれば幸いです。

庭先の花壇の黒い土をもち上げたチューリップの芽生えの、のびのはやさとすこやかさながらに幼児のすがたです。
明日の世界の担い手である貴女の子供、私の子供、すべての子供の明るくたくましい成長を母として保育者として心こめて祈りつゝ筆をおきます。

前にも申しました様に、入園当時は環境の急激な変化が、身体にも種々の障害を惹起します。子供自身は疲労とは気がつかず、又訴えます。

(筆者、感應幼稚園教諭)